

『子どもと地域のつながり』(前回の意見交換概要)

第2回中央・新旭川まちづくり推進協議会(R5. 11. 14開催)の意見交換概要

○意見交換『子どもと地域のつながり』について

※2グループに分けて意見交換を行い、最後に内容を互いに発表し、確認・共有を行いました。(旭川市立大学経済学部 黒川教授及び黒川ゼミ学生も一緒に意見交換)

～意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・昔と比べると子どもが少なくなり、学校の学級数も減り、地域によっては学校存続が危ぶまれるところもある。このような状況の中で、子どもとのふれ合いというのなかなか難しい。
- ・旭川市は子育てがしやすいまちである。この3年間はコロナ禍でどうしてもPTA活動、町内会活動が思うようにできず、活動が縮小していて、子どもとの関わり合いが持てない状況が続いている。以前のような活動に戻すために、各町内会やPTAが役割を担っていかなければならないと思うが、個人情報への壁があり、なかなか情報共有が難しい。
- ・子どもたちとの関わりを持つには、やはり地域の町内会、PTAが連携していかなければならないと思うが、一緒にやろうとしてもどこか他人行儀な部分があって、なかなか思うようにならない。
- ・子どもたちが大きくなったときのことを考えると、旭川に魅力ある企業があったり、新たに自分たちで仕事を作ったり、起業する若者を育成しやすい環境があると良いと思う。企業を誘致するだけでなく、人材を育て、いろいろな形でチャレンジしやすい環境を整え、企業をつくる活動もあっていいのではという意見もあった。
- ・世代間交流を進めるためには、お祭りなどのイベントを開催する方法があるが、単発の開催になってしまうので、日常での継続した交流にはなかなかつながらない。
- ・昔の小学校では、運動会に親戚中が集まり皆でお弁当を食べ、親御さんたち同士が顔見知りになるという一つの大きな交流の場があったが、時代とともに環境が

変化してきた。

- ・地域住民同士の交流を新たに開拓するには、親御さんに興味を持ってもらうのが先なのか、子どもの興味を引くことが先なのかという話が出たが、やはりそこは両方で、お父さん達が子どもを連れて行ってみようとなることが望ましい。
- ・学生さんから話があったが、今の親御さんたちは町内会や地域の交流にはなかなか参加しなくなっており、そのため、子どもたちも町内会が何をやっているのかが分からない。
- ・参加してもらうターゲットを考えながら、戦略を持ってイベントを開催していく必要がある。また、人を集めるためには、ビンゴゲームなどが効果的で結構人気があるということ。
- ・地域の日常的な交流の場としては、ラジオ体操などがある。子どもからお年寄りまで、顔見知りになり、挨拶もするようになるので、すごく良いのではないか。
- ・子ども食堂や地域食堂でも、ただご飯を提供するだけでなく、子どもたちと何か一緒に作業をしたり、お手伝いしてもらったりするなどして、関係づくりをしていくことも大切ではないか。
- ・今、20分や30分考えただけで、このようにいろいろと話が出てくるので、今後もこのような機会を設けたら良い。少子化の中、非常に難しい問題だがここの地域が住みやすい、楽しいということになれば素晴らしい。財源がない、環境が整わない、個人情報保護など様々な課題はあるが、協力し乗り越えていけるのではないか。